

授業概要

上場企業や会社法上の大会社等においてはその社会的重要性に鑑み、公表される財務諸表の適正性を確保するため、会社法や金融商品取引法によって、公認会計士や監査法人による監査が義務付けられている。

本講義においては、金融商品取引法制度、会社法監査制度、公認会計士法等の公認会計士監査についての制度的な背景や、監査の基本的概念について学習し、資本主義社会において公認会計士監査がどのような役割を果たしているか及びその限界について考察する。

講義はテキストを中心に進めるので、毎回テキストを持参すること。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	監査の目的と監査基準・二重責任の原則
第 3 回	米国における監査基準の設定と我が国の一般に公正妥当と認められる監査基準の体系
第 4 回	監査基準における監査の目的と財務諸表の虚偽表示
第 5 回	不正誤謬の摘発と監査人の責任
第 6 回	会計監査の効用と必要性・会計監査の機能的限界
第 7 回	公認会計士への道のり～公認会計士試験制度と合格後の状況～
第 8 回	精神的独立性と外観的独立性の意義～ケーススタディ～
第 9 回	監査基準～一般基準の概要～
第 10 回	金融商品取引法制度～発行市場と流通市場における開示制度と開示書類～
第 11 回	公認会計士法 1～総則・公認会計士の業務と業務制限・職業倫理～
第 12 回	公認会計士法 2～大会社等に係る業務制限の特例～
第 13 回	公認会計士法 3～監査法人制度～
第 14 回	会社法監査制度・監査報告書 1～監査意見～
第 15 回	監査報告書 2～追記情報と継続企業の前提～
第 16 回	定期試験

到達目標

公認会計士の短答式試験の基礎レベルの問題について解答ができるようになり、公認会計士監査制度の意義及び制度的背景について理解できるようになる。

履修上の注意

シラバスはあくまで予定であり、受講生の理解度や反応に応じ、適宜変更することがありますので、ご了承ください。

予習復習

テキストに沿って講義を行うため、毎回教員が指定するテキストの範囲の予習復習が必要となります。

評価方法

定期試験 80%、授業内小テスト 20%にて評価します。

テキスト

- ・教科書名：『ゼミナール監査論』
- ・著者名：山本 貴啓
- ・出版社名：創成社
- ・出版年：2016